

化学物質報道について

- ◆ リスクのとらえかたがハザード・ベース（ダイオキシンが典型）。庶民感覚のレベルに近い。リスク・ベースでの他物質との比較、対策の社会的なコストから見てどうか、などといった視点が乏しい。
- ◆ 「〇〇が猛烈に危険な化学物質」となると、「そりゃ大変だ」ということで、共同発表であろうと紙面で大きく扱うと予想できる。それがわかるから、意気込んで原稿を書く。関連原稿も出す。また、続報も大きくなることが期待できるので、その後も集中的に取材・執筆する。
- ◆ 後日、「健康を害する心配はなかった」との発表は、他のニュース原稿との比較で、記事が載るか（その場合、どんな扱いにするか）、ボツかが決まる。「大変だ」、「ひどい」などのものさしだと、大きな扱いは期待できず。
- ◆ 「100%安全」なら、いざ知らず、そうでないなら、訂正的な記事は載せたくないという心情もありうる。